

平成25年度

事業計画書



学校法人 岩手医科大学

目 次

1．背景と方針について	．．．．	1
2．主要な事業計画について		
(1) 総合移転整備計画関係	．．．．	2
(2) 教育・研究関係	．．．．	2
(3) 補助事業及び委託事業関係	．．．．	4
(4) 医療関係	．．．．	6
(5) 施設設備関係	．．．．	7

1. 背景と方針について

本学は、学祖三田俊次郎の岩手県における医療済生の志を受け継ぎ、建学以来、多くの有為な人材を輩出し、地域医療の安定充実に努め、県民の期待に応えてきた。

この間、生命科学は目覚ましい進歩を遂げ、本学は、これに対応した最新の教育・研究・医療を実践するため、広大な矢巾キャンパスを開設、大学及び附属病院の段階的な移転整備に踏み切り、平成 23 年 3 月には医学部、歯学部を移転、同一キャンパスに医・歯・薬の三学部を有する本邦初の医療系総合大学となった。

しかし、直後に発生した東日本大震災津波は、岩手県に甚大な被害をもたらし、多くの医療資源が流失した。被災地は全国的に問題となっている医師不足、医師偏在が以前から深刻であり、医療の復興再生は容易ではない。

本学は、使命とする地域医療の安定を第一義に、全学を挙げて医療支援活動を継続するとともに、ICT化を推進、過疎地医療の先進モデルの構築を目指す。また、先駆的モデルとして世界の注目を集めている学部の垣根を越えた教育を実践し、建学の精神に基づく「誠の総合医療人」を育成、地域医療の確保に資するとともに、教育の質を担保する学部横断的・学際的な最先端の研究を推進する。

一方、学部移転を完了し、総仕上げの段階を迎えた総合移転整備事業は、新附属病院の実施設計に着手、内丸地区整備の基本計画を確定する。社会構造の変化や政治経済の混迷が続き、私立大学の経営環境が一段と厳しさを増す中、この大事業を完遂するためには、多額の資金を確保しなければならない。各種補助金の有効活用に加え、最大の収入源である医療収入の増加と経常的経費の節減に努め、経営基盤の強化を図るものとする。

以上の方針に基づき、平成 25 年度は、次の重点事業を実施することとする。

2. 主要な事業計画について

(1) 総合移転整備計画関係

附属病院移転及び内丸メディカルセンター（仮称）整備計画の推進

附属病院移転及び内丸メディカルセンター整備計画の早期実現に向け、学内におけるヒアリングの継続とそれに基づく委員会、専門部会での協議を進め、基本設計・実施設計の策定に向けた取組を推進する。また、継続して事業内容及び資金計画の精査を行うとともに、更なる事業資金の確保についても学内外各機関との検討協議に努める。

日赤岩手乳児院等の敷地取得に向けた取組

将来的な内丸メディカルセンター整備にあたり、日赤岩手乳児院及び日赤岩手県支部の敷地取得に向けた関係機関との協議を継続するとともに、内丸地区における土地利用計画並びに基本計画の策定に向け検討を進める。

矢巾キャンパス緑化事業の推進

平成20年度から実施している矢巾キャンパス緑化計画について、平成25年度も継続して事業を推進し、木々の成長と共に今後の矢巾キャンパスの発展を見守る魅力あるキャンパスづくりを進める。

(2) 教育・研究関係

医師国家試験・歯科医師国家試験・薬剤師国家試験の合格率向上対策

・医学部

医師国家試験結果は、社会が本学の教育を評価する重要な要素の一つになっているとともに、医学部志願者にとっても志望校選択の大きな要素となっており、医学部の定員が増加する今後は、より優秀な学生の確保が本学の大きな課題となる。そのため、国家試験対策については、教授会、教務委員会、総合試験部会を中心にカリキュラム等の改編を始めとして、きめ細かい指導を継続的に実施し、合格率の向上を図る。その方策の一つとして6年生に対する集中講義等を実施する。

・歯学部

歯学部改革プロジェクトが進行中であり、同プロジェクトにより新設された学生自習室を有効活用し、Society制度（屋根瓦方式）、チューター制度、ディレクター（科目責任者）制度の下、担当チューターによる

学生個人カルテに基づいたきめ細やかな学習方法等の指導を引き続き実践する。

また、国家試験対策の一環として国家試験ならびに全国公開模擬試験の結果分析を詳細に行い、全国水準を念頭に置いた特別補講とオーダー講義を充実させる。

更に、歯科医療センター内に整備した先進総合歯科外来において学生がより多くの臨床例を自験させることにより臨床参加型実習の充実を図り、歯科医師国家試験の合格率向上を目指す。

・薬学部

国家試験対策委員会を中心に薬剤師国家試験問題の分析・対策をさらに進めていく。学生に対しては薬学部教員による徹底した個別指導はもちろんのこと、全国規模の模擬試験・国家試験対策講習会に積極的に参加させ、高合格率を目指す。

矢巾キャンパス歯学部基礎実習室（スキルスラボ）の整備

総合移転整備計画により、現有の臨床基礎実習室が所在する内丸キャンパスB棟が解体予定であることから、本学の特徴である医歯薬連携をより一層充実させることを見据え、代替実習室を矢巾キャンパス西講義実習棟3階（西300号室）に整備する。

医・歯・薬三学部の研究連携を推進

平成25年4月の大学院薬学研究科開設により、医学・歯学・薬学の医療系総合大学としてよりダイナミックな教育・研究環境を形成する準備が整った。各学部の機器を有効活用し、研究の連携を推進していく。

広汎な就職支援の展開

学内企業研究セミナー（合同企業説明会）を定期的（年2回程度）に開催し、学生に対して企業等の人事採用担当者から直接情報を得る機会を提供する。更に、就職情報検索サイト「求人NAVI」を最大限に活用し、学生に対して就職関連情報をいち早く提供する。また、厚生労働省「ハローワーク」との連携により、就職のカウンセラー「ジョブサポーター」による学生への個別指導を一年を通して継続的に実施する。

機関リポジトリ構築に向けた取組

研究成果の恒久的保存と利用の保証、情報発信力の強化のため、本学の教育研究活動の成果を収集・蓄積し、世界に発信するためのシステムを構築する。これによって、研究成果の可視性向上、研究業績の一元管理、社会からの認知度獲得が期待される。平成25年度は運用指針・要項の策定、システム面の整備、初期データ登録を目指す。

医療専門学校の入学生の確保

歯科衛生専門学校と歯科技工専門学校を「医療専門学校」に組織統合したスケールメリットを利用し、魅力ある学校見学会、体験入学を実施する。また、引き続き高校訪問を行い、受験生の掘り起こしを図る他、各種広報媒体を有効活用し、積極的な入学生の確保対策を行う。

医療専門学校の国家試験合格率の高位維持

歯科技工士、歯科衛生士養成機関として、国家資格の取得は最終目的であり、国家試験合格率は社会の学校評価の重要な指標となるため、今後もきめ細かい国家試験対策の指導を継続し、高位合格率の維持を図る。

(3) 補助事業及び委託事業関係

私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費補助金による機器更新

導入予定機器 電界放出形走査型電子顕微鏡 1台
設置場所 バイオイメーキングセンター

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の推進

「超高磁場7テスラMRIを機軸とした生体機能・動態イメージングの学際的研究拠点」(継続)

事業年度：平成21年度～平成25年度

「低侵襲医療実現のための患部ターゲティング医療開発研究プロジェクト」(継続)

事業年度：平成22年度～平成26年度

次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラム

「創薬コンセプトに基づく戦略的治療デザインの確立」(継続)

事業年度：平成23年度～平成27年度

オーダーメイド医療実現化プロジェクト

「オーダーメイド医療実現化プロジェクト(第3期)」

事業年度：平成25年度～平成27年度

次世代がん研究戦略推進プロジェクト

「がん薬物療法の個別適正化プロジェクト」

事業年度：平成25年度～平成27年度

革新的医療機器創出・開発促進事業

革新的な医療機器の創出を通じて、企業誘致及び雇用創出を図り、地域経済活動を再生することを目的とし、岩手県と本学が連携し、医療機器の早期実用化のため研究開発を推進する。

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

複数の大学の特色、得意分野を活かしながら相互的に連携・補完し、教育の活性化及びがん専門医療人養成拠点の形成を目指す。順天堂大学を主幹とした「ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン」に参画し2年目を迎え、がん医療に携わる専門的な知識や技能を備えた医師、その他の医療従事者育成の促進とがん医療のより一層の均てん化を推進する。

災害時地域医療支援教育センター事業

東日本大震災において本学が実践した行政との被災地支援等を踏まえ、災害時の緊急医療支援体制を含む総合的地域医療支援体制を拡充・強化するための教育・研究の拠点を目指す。更に、災害医学講座と相互に連携し、全国に発信できる災害時医療体制モデルの確立と災害医療教育による全国の医学生や臨床研修医を対象とした人材育成を実施する。

また、遠隔医療ネットワーク構築のため、被災地医療機関との連携支援システムを確立し、災害時医療支援体制の組織化モデルを構築する。

岩手県こころのケアセンター運営事業

岩手県から事業委託を受け、センター本部を内丸キャンパスに設置し運営している本事業の機能を、矢巾キャンパスマルチメディア教育研究棟内に一部移行する。事務室及び研修室等の整備を進め、円滑な事業運営を図る。

いわてこどもケアセンター運営事業

東日本大震災津波に被災した子供に対するこころのケアを中長期的、安定的に行うため、岩手県から事業委託を受け、中央センターを矢巾キャンパスマルチメディア教育研究棟1階に設置するとともに、職員を採用し、沿岸地域と連携した専門的・継続的なケアに取り組む。

東北メディカル・メガバンク計画の本格実施

いわて東北メディカル・メガバンク機構は、東日本大震災で未曾有の被害を受けた被災地域において、地域医療の復興・充実に貢献するとともに、住民の理解と協力のもと、健康・診療等の情報と生体試料によるバイオバンクを構築し、創薬研究や個別化医療の基盤を形成することで、将来的に得られる成果を住民の方々に還元することを目指す。

(4) 医療関係

手術支援ロボット da Vinci Si サージカルシステム導入

移転後の附属病院機能の高度化を見据えて、教育・研究及び診療への適応を拡大し、人材育成と収益増を図る目的により導入する。

放射線治療器(直線加速器リニアック)アップグレード

10号館地下のリニアック治療器が老朽化し、部品調達が困難になっていることから、アップグレードを行う。

中央臨床検査部採血室拡張及び検査機器更新

採血患者の待ち時間の解消を図ることを目的として、輸血検査室及び現有検査機器を移設し、採血室の拡張を図る。また、中央臨床検査部の検査機器の多くが更新時期を迎えていることから、附属病院移転を見据えた機器更新を行う。

デジタルガンマカメラシステム更新

購入後16年が経過し、劣化が著しいデジタルガンマカメラシステムを更新する。

歯科麻酔科診療室の増設

現歯科麻酔科診療室に隣接する検査室を、新たに歯科麻酔科診療室の一部に加え、歯科ユニットを2台設置することにより、診療における麻酔の効率化を図る。

循環器医療センター5階ICU増床拡充工事

現在10床のベッド数を12床に増床し手術件数と受入患者の増加を図り増収につなげる。

呼吸同期PET/CTによる診断精度の向上

肺癌、肝癌などでは検査中(約25-35分)の呼吸性移動のためPET集積部位が拡張・希釈され、実際の集積率より低くなり診断精度が劣化している。これに対し、呼吸同期システムを本システムに付加することにより、年間120件ある肺腫瘍や肝腫瘍の正診率が向上し、病期や再発の診断に大きく寄与する。本機能は県内で唯一PET・リニアックセンターのみ可能であり、高品質の画像診断情報を地域のがん診療医に提供する。

(5) 施設設備関係

本町地区及び上田地区内建物の解体と土地活用

本町地区(元看護婦寄宿舍、第二体育館)及び上田地区(第二医大寮、馬術部施設)内の建物は、老朽化が進み使用及び管理上危険な状態にあるため解体を行う。

また、元看護宿舎解体跡地及び第二医大寮解体跡地については、駐車場等に有効活用するため、(株)こずかたサービスへ貸与を行う。

附属病院施設修繕工事

外来患者待ち時間の解消及び病棟アメニティの改善を目的に施設修繕工事を行う。また、電子カルテ端末の増設及びネットワーク関連工事を行う。

内丸キャンパス外壁修繕工事

内丸キャンパス内の建築物定期検査において、1号館他数棟の外壁が落下、崩落する恐れがある旨の指摘を受けたことから、通行者が多く危険度の高い箇所を優先し修繕工事を行う。

循環器医療センター不活性ガス消火設備貯蔵容器更新工事

平成21年3月のガス系消火設備貯蔵容器の消防法に基づく点検要領の改正に伴い、設置後15年を経過した容器については、安全性に関する点検整備の義務を課せられたため、平成9年に設置された本設備の更新を行う。

6号館非常用発電機 2 始動用直流電源装置更新工事

本装置は非常用発電機起動時に必要な電源装置であり、停電時における病院機能維持に非常に重要な装置である。設置後25年が経過し、装置内部に劣化が見受けられること、保守部品の製造中止により故障時の修繕対応が不可能なことから更新工事を行う。

矢巾キャンパス学生クラブ活動施設等整備事業

学生クラブ活動施設整備のために弓道場およびアーチェリー場を矢巾キャンパスに新設する。

平成 25 年 3 月 25 日
岩手医科大学企画調整課